

編 集 後 記

厳しい寒さがつづく毎日です。新聞の死亡広告にも心筋梗塞や脳卒中の病名が目立つ季節となりました。

今月の特集は先月にひきつづき心疾患のリハビリテーションです。心疾患のリハはそれ自体極めて興味あるテーマですが、さらに、これらの知識は各種の肢体不自由児者の心機能の管理に利用されるものでもあるので、リハ医療にたずさわるすべての人々にとっては極めて関心が深いものと思われます。

南谷氏はエネルギー代謝についての基本的知識を懇切丁寧に紹介され、古田氏は心臓外科手術後の追跡調査として、5 年間 59 例の自験例の社会復帰の状況を紹介されています。山口氏はまだわが国では広く普及していない虚血性心疾患に対する冠動脈造影法の有用性を説かれ、これをついで鈴木氏が冠動脈外科の現況を紹介されました。宮原氏は β 受容体反応亢進症について詳細な検討を加えた結果、特発性過動心状態としてとらえるべきであると説かれ、最後に紅露氏は頻拍警報装置について紹介されています。

以上の 6 論文はリハ医療にたずさわる者にとって、いずれもおおいに参考になり、役立

つものであると思われます。

リハ医として心臓に問題点を有する肢体不自由児者にこれらの知識を応用しようとする場合に、頻拍警報装置などはその適用範囲が極めて広いものと思われます。エネルギー代謝については、肢体不自由児者に応用する場合には健常者と異なって、各種活動時のエネルギー消費量の標準的な値を定め難いという困難さがあります。例えば片麻痺の程度、運動訓練の経過などによって同一動作の酸素消費が異なってきます。また一部の患者では一定の速度でしか歩けず、速度を適宜に変えることができないものもあります。これらの困難を克服して今後更に研究を進めていかねばならない領域であると考えます。最後に片麻痺患者で、心不全症状なく、心電図所見正常、甲状腺機能亢進がないにも拘らず、病室では正常の脈搏数であるのに訓練室に出ると運動開始前に脈搏数が毎分 100 を越えて、そのために運動訓練がおこなえず、プロプラノロールの投薬によってこの脈搏数の増加が消失する例が時にみられます。 β 受容体反応亢進症—特発性過動心状態の理解の重要な所以です。

(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次 号 予 告 (第 5 巻 第 3 号)

特 集 リハビリテーション看護

看護教育におけるリハビリテーション……………都老研 中 井 英 子・他
リハビリテーション病棟におけるナースの役割……………都養育院 大 山 好 子・他
リハビリテーションナーシングに……………九州労災病院 今 吉 一 恵
必要な看護機器……………白十字病院 島 田 妙 子
訪問看護とリハビリテーション……………東大 上 田 敏・他
座談会：リハビリテーションにおけるナースと
他職種とのチームワーク……………菅 原 正 信

講 座 歩行分析 (3)……………菅 原 正 信